

2023 「植村直己冒険賞」受賞者



たなか あきら
田中 彰 (高知県在住)



おおにし りょうじ
大西 良治 (東京都在住)

ヒマラヤ・アンナプルナ山群の大渓谷「セティ・ゴルジュ」探検

概要

ヒマラヤ・アンナプルナ山群にある巨大な大地の裂け目「セティ・ゴルジュ」は、現地で「悪魔の谷」と呼ばれている。狭い場所では幅数m、深さは400m以上もあり、これまでNASAや地質学者らの調査でも近づくことのできない人類未踏の深い峡谷である。

2019年にその存在を知り、着想から4年。新型コロナウイルス感染症で行動できず、機会を待った。そして、2022年の一次遠征を経て、今回これまで誰も挑んだことのない探検に挑戦した。

十分な事前調査のもとに行われた踏査であったが、冬のゴルジュ底でのビバーク（露営）は不可能で、用意しておいた400mロープをヘッドランプを頼りに登り返してベースキャンプに戻る。下降用のロープを外すと、ゴール地点までたどり着かなければ谷底から戻ることは出来ない。真冬の水温はわずか1℃で、夜までに戻らなければ凍死する可能性もある。まさに後戻りのできない探検だった。

標高3500m付近から全長約5kmにわたって続く狭く深い峡谷「セティ・ゴルジュ」、これまでその成り立ちは謎とされ、地質学者が知りたかったゴルジュ周辺の地層を今回克明に記録したことは科学史上に残る成果で、まさに快挙である。

工夫・独創性

- ・セティ・ゴルジュまでのルートがないため、ヘリコプターで入山。一次遠征では標高約3200m、二次遠征では標高約3900mの岩場に降り立ちベースキャンプを設置した。
- ・これまでフランスの地質調査チームがアンナプルナ地域の地質図を作成したが、大絶壁があるため誰も調査することができず、セティ川源流域のみ空白地帯となっていた。今回誰も挑んだことのない踏査によって、その成り立ちを知るきっかけとなった。
- ・インドがアジア大陸にぶつかる大陸衝突による海底隆起が起きる過程でヒマラヤに多くの断層が作られたが、今回の踏査によって、セティ・ゴルジュ周辺は断層とおぼしき地形が密集しており、セティ・ゴルジュ自体も断層である可能性が示された。

- ・アンナプルナⅢとⅣの間には、かつて山があり、巨大地震によって山体崩壊を起こしてゴルジュの上に堆積し、針山のような特殊な地形となった可能性が示された。

冒険経歴等

田中 彰

渓谷探検家、キャニオニングガイド。国際キャニオニング協会認定インストラクター。(一社)ジャパンキャニオニング協会副理事。関西大学探検部出身。

29歳の時、当時日本にはなかったアクティビティ「キャニオニング」と出会いその世界に没頭。2017年にアジア人初、当時世界で9人しかいない国際キャニオニング協会(CIC)認定インストラクターとなる。オセアニア、アジア、ヨーロッパ、南米などへの遠征を繰り返し、日本内外で数百の渓谷を探検する日本での第一人者。

2016年 台湾：恰堪溪（チャーカンシー）初下降

2018年 ニュージーランド：グルーミーゴルジュ第2下降

2020年 台湾：卡社溪（カーシャーシー）初下降

大西 良治

日本山岳・スポーツクライミング協会ルートセッター、日本山岳ガイド協会フリークライミングインストラクター。東北大学ワンダーフォーゲル部出身。

19歳で沢登りを始め、22歳のときに単独行に目覚める。国内外多数の沢を遡行し、現在に至るまで日本の沢の大半はソロで遡行。世界最難のグルーミーゴルジュを世界第2降、北アルプスの剣沢や前人未踏として知られた称名ゴルジュの単独行に成功。同時にクライミングにも傾倒し、ボルダリングでは御岳「蜥蜴」（四段）初登、ルートでは大日岩「フォッサマグナ」（5.14a）を登る。

2010年 山形県梅花皮（かいらぎ）沢滝沢単独行初完全遡行、長野県赤川地獄谷単独行

2011年 富山県剣沢大滝単独行

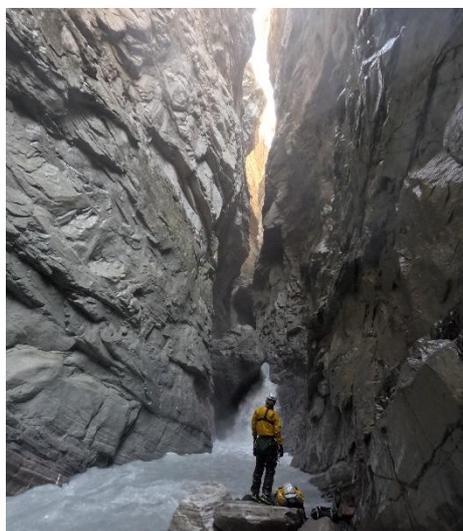
2013年 台湾：恰堪溪（チャーカンシー）初遡行

2014年 新潟県飯豊川～北股川下降単独行

2016年 富山県称名川本流単独行初完全遡行、台湾：恰堪溪（チャーカンシー）初下降

2018年 ニュージーランド：グルーミーゴルジュ第2下降

2020年 山形県荒川 毛無沢本沢単独行、台湾：卡社溪（カーシャーシー）初下降



(提供：田中彰)